



『五事を正す』夏の努力を土台にして！

校長 浅見 正史

今年の夏も、異常なほどの猛暑日が続きました。それでも、生徒のみなさんが学習やスポーツ、部活動に一生懸命取り組む姿に、たくましさ頼もしさを感じました。剣道部男子団体が県大会へ出場、市中学校夏季体育大会では野球部が準優勝、市中学校等英語弁論・暗唱大会Aブロックで弁論の部1位、1年暗唱の部2位、2年暗唱の部2位という素晴らしい成果を収めました。努力の積み重ねが結果につながったこと、本当に誇らしく思います。また、10月21日(火)に実施予定の市中学校駅伝競走大会に向けて、練習も始まり、歯を食いしばり、懸命に走る姿はとてまっかこよくみえました。これからの活躍を心から応援しています。



さて、みなさんは「五事を正す」という言葉を知っていますか。これは、江戸時代の儒学者・中江藤樹先生が説いた、人として大切にすべき五つの行いです。五事とは、「貌（ぼう）・言（げん）・視（し）・聴（ちょう）・思（し）」の五つ。つまり、表情・言葉・目つき・耳の傾け方・思いやりです。

「貌」…穏やかな表情は、相手に安心感を与えます。（顔つき）

「言」…優しい言葉は、人の心を温かくします。（言葉遣い）

「視」…偏見なく物事を見ること。（まなざし）

「聴」…相手の話を最後まで誠実に聴く姿勢。（よく聴く）

「思」…相手の立場に立って考える心。（思いやり）

これらは、特別な力や知識がなくても、誰でも今から実践できる行動です。たとえば、友達が困っているときに優しい言葉をかけるだけで、その人の気持ちは大きく変わります。廊下ですれ違うときに笑顔で挨拶するだけで、学校の空気が明るくなります。

中江藤樹先生は「人の心は鏡のようなもの」と言っています。五事を意識することで、その鏡は曇りなく輝き、周囲にも良い影響を与えます。みなさん一人ひとりが五事を意識して行動することで、学校全体がもっと優しく、温かい場所になります。ぜひ、夏の努力を土台として、今から自分の「貌・言・視・聴・思」を見つめ直してみてください。2学期が始まりました。元気を出していきましょう！



保護者の皆さまへ ～ 親子で効果的なコミュニケーション方法 ～

親子の信頼を築くためのコミュニケーションのコツを紹介します。

- ① 「聞く」が8割、「話す」は2割
アドバイスより共感を：「それは大変だったね」「そう感じるのも無理ないよ」と、まずは気持ちに寄り添う。
最後まで聞く：途中で口を挟まず、子どもが話し終えるまで待つことで「話してもいいんだ」と思える。
- ② 否定しない・評価しない
「でも」「そんなこと言っても」はNGワード：否定されると心を閉ざしてしまう。
意見が違っても尊重する：「そういう考え方もあるんだね」と受け止める姿勢が大切。
- ③ タイミングを見極める
話しかけるベストタイミング：食事中、移動中、寝る前など、リラックスしている時が狙い目。
無理に話させない：沈黙もコミュニケーションの一部。話したくなるまで待つ余裕を持つ。
- ④ 一緒に過ごす時間をつくる
共通の趣味や活動を見つける：ゲーム、料理、散歩など、自然な会話が生まれる場を。
「何を話すか」より「一緒にいること」が大事：言葉がなくても、安心感は伝わる。